



学校だより

平成 30 年 5 月 31 日
No.3 6 月号
横浜市立篠原西小学校

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shinoharanishi/>

雨の日に・・・

～666人で行く思いやり～

副校長 岩澤 尚彦

5月26日（土）は、とてもよい天候に恵まれ、盛大に第50回運動会を実施することができました。皆様の多大なるご理解とご支援に感謝申し上げます。50周年記念事業の一環として、「50周年記念事業イベント～バルーンに夢をのせて～」が行われました。700個に近いバルーンは、子どもたちの夢をのせて、大空へ舞い上がりました。子どもたちと会場の拍手と歓声が一体となり、感動的で忘れられないプログラムとなりました。企画・運営していただきました創立50周年記念事業実行委員会の皆様には心より感謝申し上げます。

さて、運動会はどの学校でも大きな行事のひとつであり、かなりのエネルギーを結集してつくりあげるものです。これだけの取組をするからには、大きな成果が期待できるはずですが、では、その成果とは何でしょうか。それは「成長」だと思ふのです。そして、その「成長」には見える事実としての成長と、心の中にある見えない成長があると思います。運動会が終わり、子どもたちは絵や作文などに表現するなど、自分の成長などについての振り返りが行われています。

4月より雨が降る日は少なかったのですが、ある雨の日に気が付いたことがありました。登校終了後、私が昇降口の扉を閉めに行き、傘立てに目が向きました。たくさんの傘があるにもかかわらず、傘がきちんと収められているのです。

1つの傘立てがたまたまそうになっていたのかと思い、他の学年の傘立ても見ることにしました。どの学年もきれいに収められていました。



ここでいう『きれいに収める』というのは、見た目はもちろんのこと、取り出すときに、だれもが取り出しやすく他の人に迷惑をかけないということです。

傘を丸めて、ひもで止め、傘立てに垂直に入れる。当たり前のことかもしれませんが、私には、本校の傘立ての光景から、一人ひとりの子どもたちの思いやりの気持ちを感じ、胸がじんじんとしました。

今まで、各ご家庭、幼稚園、保育園で身につけたり、学校で入学時に、先生や6年生から教えてもらったりするなど、様々な場面での成果ではないかと考えます。ぜひ、篠原西小学校のよき伝統として、これからも全校で行く思いやりの姿を見せられるように、子どもたちを育てていきたいと思ふます。